

市営バス各路線の運行概要・年間利用者数・1日平均利用者数

路線	運行概要	年間利用者数（人）				1日平均利用者数（人）		主な増減理由 (1日平均±2人以上)
		R5年度		R4年度		前年度比		
		有料	無料	有料	無料			
五頭温泉郷線	●阿賀野市役所～七浦区間を運行 ●市役所方面1日6本、七浦方面1日7本運行	15,487		16,610		43.5	▲ 3.4	
		10,323	5,164	11,510	5,100			
分田線	●阿賀野市役所～安田支所間を運行 ●市役所方面1日8本、安田支所方面1日7本運行	20,372		19,091		84.9	5.7	
		17,031	3,341	15,921	3,170			
千唐仁線	●阿賀野市役所～安田支所間を運行 ●市役所方面1日3本、安田支所方面1日3本運行	5,091		4,491		21.2	2.6	
		3,224	1,867	3,090	1,401			
江端線	●阿賀野市役所～安田支所間を運行 ●市役所方面1日3本、安田支所方面1日4本運行	3,873		4,001		16.1	▲ 0.5	
		1,114	2,759	1,368	2,633			
寺社線	●阿賀野市役所～安田支所・外谷・サントピアワールド間を運行 ●市役所方面1日3本、安田支所・外谷・サントピアワールド方面1日4本運行	6,090		5,247		25.4	5.7	
		1,541	4,549	1,581	3,666			
大室線	●阿賀野市役所～新保間を運行 ●市役所方面1日4本（うちデマンド交通実証運行2本）、新保方面1日4本運行（うちデマンド交通実証運行2本）	3,774		4,249		15.7	▲ 1.9	
		984	2,790	1,208	3,041			
駒林線	●阿賀野市役所～京和荘区間を運行 ●市役所方面1日4本（うちデマンド交通実証運行2本）、京和荘方面1日6本（うちデマンド交通実証運行2本、冬季限定運行1本） ※駒林支線はすべて予約が必要	4,226		4,284		17.6	▲ 0.2	
		2,089	2,137	1,855	2,429			
前山線	●阿賀野市役所～京和荘区間を運行 ●市役所方面1日4本（うちデマンド交通実証運行2本）、京和荘方面1日4本（うちデマンド交通実証運行3本）運行	2,069		2,179		8.6	▲ 0.4	
		532	1,537	732	1,447			
折居大日線	●阿賀野市役所～笹神支所区間を運行 ●市役所方面1日4本（うちデマンド交通実証運行1本）、笹神支所方面1日4本（うちデマンド交通実証運行1本）運行	6,047		5,951		25.2	0.5	
		1,311	4,736	1,692	4,259			
神山線	●阿賀野市役所～笹神支所間を運行 ●市役所方面1日5本（うちデマンド交通実証運行2本）、笹神支所方面1日5本（うちデマンド交通実証運行1本）運行	7,033		6,214		29.3	3.5	
		608	6,425	775	5,439			
安田地域循環線	●安田地域をA、Bの2つのルートで循環運行 ●A:外回り1日2本、内回り1日2本運行 ●B:外回り1日2本、内回り1日2本運行	7,108		6,906		29.6	0.9	
		1,177	5,931	1,431	5,475			
合計		81,170		79,223		317.1	12.5	
		39,934	41,236	41,163	38,060			

※路線別の詳細は [資料1-3](#) を参照

## 令和5年度 阿賀野市営バスの運行状況

### 1 現在の公共交通について

阿賀野市内における公共交通は、市外へ通じる幹線交通である鉄道、民営路線バスを軸に、水原市街地から放射状に広がる阿賀野市営バスを平成16年度から運行し、公共交通網が市内全域に広がっています。

市営バスは11路線あり、朝夕は主に学生の通学のため、日中は移動の手段を持たない高齢者を中心とした通院や買い物など、生活に必要な交通として機能しています。また、新潟市・新発田市に通じる鉄道駅、新潟へ通じる民営路線バスの幹線交通に対する支線の役割も果たしています。

図 阿賀野市内公共交通網



## 2 市営バスの利用状況

市営バスの利用者数は、平成 16 年度の運行開始から平成 21 年度まで増加を続けていましたが、固定利用者や学生の減少、高齢者の自家用車運転の増加等により、平成 22 年度以降は減少傾向に転じていましたが、令和 5 年度は 81,170 人で、前年度に比べ、微増となっています。

1 日平均利用者数で見ると、令和 5 年度は 317.1 人となり、12.5 人増加しています。

この結果は、令和 5 年 5 月に新型コロナが第 5 類に移行したことを受け、人の流れがコロナ前に戻りつつあることを示しており、11 路線中、6 路線で前年度の利用者数を上回っています。ただし、残り 5 路線につきましては、依然として減少傾向であり、全体としてはわずかな増加に留まっています。

年度別利用者数の推移

